



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.80

毎月1日号に掲載

るスケートパーク整備を要望している。

先日、山岳会の会長として広島で開催されたFIRS E(フイセ)を観戦したが、難易度の高いボルダリング壁が設置しており、スパイダーマン顔負けのテクニックで壁を登る様子は手に汗握る迫力があった。他にもスケボーやBMX等のアーバンスポーツのカッコ良さに観衆の多くが魅了されていた。今まで子供の遊びと見られていたスケボーが実はプロスポーツであり、颯爽と滑るスケーターの姿は新たな時代の幕開けを感じさせた。新体育館に建設中のクライミング壁と併せて東京オリンピック新種目すべてが楽しめる施設が福山にできれば、オリンピックムーブメントの醸成に寄与するだろう。

また芦田川はバスフィッシングのメッカでもあり、バスボートを手軽に川に下せるスロップも建設される。さらに老朽化した河川敷の歩道もリニューアルされ、ウォーキングコースとサイクリングコースの2本が整備される予定だ。芦田川を多くの市民が活用するようになれば、また昔の芦田川を取り戻そうという声も上がるだろう。河口堰開放に向けての道筋も見えてくるのではないだろうか。

かわまち広場の整備

私が議員になった動機は芦田川の水質ワースト1の返上であった。乗らなくなった自転車がすぐ錆びると同様に、市民の関心が薄れた川は汚いままだろう。そこで小林史明代議士と相談した結果、芦田川を活用する会・芦活部が結成され、大人の運動会の開催等により官民一体のかわまち広場整備の地下を作った。

私も競馬場跡地に建設中の新体育館は隣接する芦田川河川敷と一体的な活用が望ましいと議会で提案し、小林代議士の尽力により河川敷に国土交通省のかわまちづくり支援制度(補助金)を活用したかわまち広場の建設が決定した。この広場で何ができるか、市が示した構想図ではマラソン大会や、とんど、出初式、ボート等の水上スポーツが楽しめる予定だ。芦活部としても広場の一番北側にスケボー、BMX、インラインスケート等が楽しめる